

教育推進部教育指導課

令和7年度学校評価の報告について

- 学校評価は、「学校運営の改善を目指し、教育水準の向上を図る」ことを目的とし、各学校園が、自校(園)の教育活動その他の学校運営の状況について、以下のとおり評価を行い、その結果に基づき必要な措置を講ずることが、平成19年改正された学校教育法、同法施行規則に示されている。
 - ①教職員による自己評価を行い、その結果を公表すること
 - ②学校の自己評価について保護者などの学校の関係者による評価（「学校関係者評価」）を行うとともにその結果を公表するよう努めること
 - ③自己評価の結果・学校関係者評価の結果を設置者に報告すること

- 文京区教育委員会では、法改正に基づき平成20年度より学校評価を実施している。平成21年4月に「文京区立学校関係者評価委員会設置要綱」を定め、「学校関係者評価委員会」を組織して、学校関係者評価を実施することとした。平成22年度には、各学校からの学校評価報告とともに、区全体の状況を把握するための参考として、学校関係者評価に区共通項目を策定した。

- ここに、令和7年度学校評価の集計結果を示すとともに、学校支援の具体的な手立てを講じて、教育施策の実行状況や進展状況を把握する資料とする。

別紙1 令和7年度学校関係者評価共通項目（集計結果）

10（園）

幼稚園		A	B	C	D	区平均	
1	重点目標（中・短期経営目標含む）が、適切である。 （課題を踏まえて具体的かつ明確に示されているか）	10	0	0	0	3.95	A
2	具体的取組の設定は、適切である。 （目標を達成するために、有効的かつ明確に示されているか）	10	0	0	0	3.93	A
3	自己評価の分析は適切である。 （成果や課題について、分析や解釈がきちんと行われているか）	10	0	0	0	3.87	A
4	課題に対する改善策は適切である。 （有効とされる改善策が明確に示されているか）	10	0	0	0	3.92	A
5	学校関係者評価のための資料は適切である。 （学校の自己評価結果を評価するために必要かつ分かりやすい資料が提供されているか）	10	0	0	0	3.94	A

20（校）

小学校		A	B	C	D	区平均	
1	重点目標（中・短期経営目標含む）が、適切である。 （課題を踏まえて具体的かつ明確に示されているか）	20	0	0	0	3.92	A
2	具体的取組の設定は、適切である。 （目標を達成するために、有効的かつ明確に示されているか）	20	0	0	0	3.88	A
3	自己評価の分析は適切である。 （成果や課題について、分析や解釈がきちんと行われているか）	18	2	0	0	3.74	A
4	課題に対する改善策は適切である。 （有効とされる改善策が明確に示されているか）	18	2	0	0	3.74	A
5	学校関係者評価のための資料は適切である。 （学校の自己評価結果を評価するために必要かつ分かりやすい資料が提供されているか）	19	1	0	0	3.81	A

10（校）

中学校		A	B	C	D	区平均	
1	重点目標（中・短期経営目標含む）が、適切である。 （課題を踏まえて具体的かつ明確に示されているか）	10	0	0	0	3.89	A
2	具体的取組の設定は、適切である。 （目標を達成するために、有効的かつ明確に示されているか）	10	0	0	0	3.84	A
3	自己評価の分析は適切である。 （成果や課題について、分析や解釈がきちんと行われているか）	9	1	0	0	3.67	A
4	課題に対する改善策は適切である。 （有効とされる改善策が明確に示されているか）	10	0	0	0	3.76	A
5	学校関係者評価のための資料は適切である。 （学校の自己評価結果を評価するために必要かつ分かりやすい資料が提供されているか）	10	0	0	0	3.78	A

※各関係者評価委員が4段階で評価した学校（園）の平均値を下記の基準をもとにABCDの4段階で評定したもの。
（A：4～3.4以上、B：3.4未満～2.6以上、C：2.6未満～1.8以上、D：1.8未満）

別紙2 令和7年度 保護者アンケート(区共通項目)集計結果

	質問項目	幼稚園				
		とてもあてはまる(%)	まああてはまる(%)	あまりあてはまらない(%)	まったくあてはまらない(%)	わからない・無回答(%)
1	本校(園)の教育活動に満足している。	83.0%	15.8%	1.2%	0.0%	0.0%
2	本校(園)の子どもたちは、学校での生活が楽しいと感じている。	83.3%	15.3%	0.5%	0.0%	0.9%
3	本校(園)では、一人一人が大切にされ、子どもの人権に配慮した教育が行われている。	83.1%	15.2%	1.3%	0.0%	0.8%
4	本校(園)は、特色ある校(園)づくりに積極的に取り組んでいる。	81.3%	16.6%	1.5%	0.0%	1.0%
5	本校の授業は、子どもにとって分かりやすい内容である。【小・中学校】	/	/	/	/	/
	本園は、一人一人の幼児理解に努め、適切な保育に努めている。【幼稚園】	80.1%	17.9%	1.9%	0.0%	0.6%
6	本校は、日頃よりいじめの未然防止に適切に取り組むとともに、学校生活で起きたいじめ等の問題(本園は、園の生活で起きた子ども同士のトラブル)に対して、素早く丁寧に対応している。	66.6%	25.0%	1.9%	0.0%	7.0%
7	本校(園)では、子どもの安全管理や事故防止に努めている。	76.5%	20.5%	1.7%	0.0%	1.8%
8	本校(園)は、保護者や地域に対し、積極的に情報を発信している。	75.4%	21.9%	2.2%	0.0%	0.5%
9	本校(園)は、区や学校の方針等に対する保護者の意見をよく聞き、保護者と協力して教育を進めようとしている。	69.1%	25.4%	3.7%	0.0%	2.8%
10	来校時や電話での本校(園)の教職員のあいさつや対応は、適切である。	88.3%	10.4%	1.2%	0.2%	0.5%

小学校				
とてもあてはまる(%)	まああてはまる(%)	あまりあてはまらない(%)	まったくあてはまらない(%)	わからない・無回答(%)
41.4%	52.9%	3.4%	0.8%	1.5%
43.3%	49.2%	4.6%	0.9%	2.1%
38.1%	50.4%	4.8%	1.0%	5.7%
42.8%	46.2%	4.6%	0.8%	5.6%
37.1%	51.8%	4.0%	0.4%	6.7%
/	/	/	/	/
28.0%	39.9%	5.4%	1.3%	25.4%
38.5%	49.0%	3.2%	0.8%	8.5%
41.4%	49.8%	4.1%	0.7%	4.1%
33.9%	47.4%	4.6%	1.1%	13.0%
63.8%	32.8%	1.5%	0.4%	1.5%

中学校				
とてもあてはまる(%)	まああてはまる(%)	あまりあてはまらない(%)	まったくあてはまらない(%)	わからない・無回答(%)
37.8%	52.1%	5.1%	1.7%	3.3%
37.7%	50.9%	4.4%	1.0%	6.0%
36.1%	50.2%	5.3%	1.4%	7.1%
35.2%	45.4%	7.0%	1.3%	11.1%
23.9%	52.8%	7.9%	1.4%	14.0%
/	/	/	/	/
29.1%	37.9%	4.7%	1.9%	26.4%
35.7%	48.4%	3.5%	1.1%	11.3%
39.6%	49.2%	4.9%	1.7%	4.7%
33.2%	47.0%	5.0%	1.7%	13.1%
63.4%	31.4%	1.7%	0.8%	2.7%

※数値は、各学校の平均値

※表の合計値は、小数点以下を四捨五入しているため、100%にならない場合があります。

幼稚園	家庭と地域	<ul style="list-style-type: none"> 保護者の多くが職場でのフルの役割を課されている状況の中で、親として受け止めるべきお子さんの思いの深刻さに気付くのが難しくなっていると感じる。先生方の取り組みや課題が親にも共有され、子どもの権利や幸せをまん中に、地域の力を生かしながら、力強く分かりやすくメッセージを発信していただけたらと思う。 幼児の作ったひな人形を見て、自宅に我が子が在園したときに作ったひな人形を今も大切にしていることを思い出し、園での製作物は家庭との大切な連携と感じた。 先生自身が、子どもや保護者を理解しようと努力したり子どもの経験が積み重なるように教材や援助を工夫したりしていること、園内研究で学んでいることが子どもの成長に反映されていることを手紙やホームページなどから分かる。
	安全・安心	<ul style="list-style-type: none"> 学期ごとのねらいをもち、子どもたちの興味・関心を受け止めて教材を準備し、子どもたちが使いやすい環境を整える工夫などもあり保育の参考になった。また、栽培物など都会の中でも自然に触れる機会をもつ環境や、栽培物の素材を活用する工夫など、計画的に行っていたことを感じる。 子ども一人一人の気持ちを受け取って「やりたいこと」「やりたくないこと」を尊重していただいていると思う。何でも受け入れるわけではなく、しっかりと対話をし、その上での対応をしていただいている。 保育を参観することができたことで、幼児が自ら意思決定して遊びに向かう姿が見られて学びが広がっている様子が分かった。
	教職員連携	<ul style="list-style-type: none"> 家庭では、運動遊びを教える際に難しさを感じる。幼稚園で、様々な体の使い方を体験すると、新たに取り組むにも生かせることがあると、子ども自身が感じていた。幼稚園の2年間を通して学ぶことは様々ある。先生や友達と一緒に経験することで、できるようになることが増えるので、一年一年を大切に過ごしてほしい。 教員が園内研究を通して、製作遊びの場面における指導の工夫を図った。保護者にも子どもの育ちが伝わり評価されている。教員の自己評価が低いことが気に掛かる。教員には、保護者からの評価を肯定的に受け止めて、自信をもって保育を行ってほしい。 若手育成に関しては、保育園も幼稚園も同じ状況であり、これからの幼児教育を担う存在となる若手が伸びていくことを期待している。
小学校	学力向上	<ul style="list-style-type: none"> 各学年において観察、実験、実習、そして校外学習など様々な体験型学習を行い、能動的かつ主体的な学習を実践し、思考力を養う工夫ある活動を行っている。教員が熱心な教材研究を行い、また指導力向上のために、組織的に研修、指導、支援を行い、授業の指導力を高めており、児童アンケートでも「授業がわかりやすい」という項目は高い数値となっている。 自力解決の時間を必ず取り入れたこと、問題作りを自分たちで行うようにしたことなどは高く評価できる取組である。そのためには十分な授業時間を確保することが大切であり、来年度に向けて時間を守るという事以外にも、発言方法の工夫など、必ずしも前例にとらわれない改善を期待したいと思います。
	豊かな心・人間性・感性の育成	<ul style="list-style-type: none"> 人権に配慮した教育の実践に関して高評価が継続できている。特に特別支援学級と通常学級の交流及び共同学習の機会や、東京都教育委員会による「人権教育プログラム」等の活用を進め、『個を大切に学級経営』に生かされているように見受けられる。 研究発表会での公開授業をはじめ、授業を参観した際に先生方が一人一人に丁寧に関わり、多様な個性の子供たちに寄り添っており温かな雰囲気であった。 自他の尊重を目的としてアサーションプログラムが活用され、道徳の授業においてもその取組みが行われている。いじめ防止への各種施策や社会のルールについての指導、「心の充実」への学校の取組みに関する保護者の評価も高く、満足度の高さが窺える。
	家庭・地域との連携	<ul style="list-style-type: none"> 学校運営や先生方の子供たちへの努力が素晴らしい。学校の教育活動の取組が伝わっていないことへの対応が大変だと思う。PTAの方の協力や参加により学校の実情を分かる人が増えると思う。地域の者として、子供たちへの未来を導いていることに感謝でいっぱい。少しでも協力していきたい。 地域の学習教材となる場所に出向いたり、地域の方々をゲストを招いて授業を行っている事は、子どもたちにとって直接地域の話を聞けるので、これからも地域のいろいろな場所に出向いたり、地域の人を呼んで授業をして欲しいです。学習した事により、子どもたちが今より更に地域に関心を持ち、将来に渡り地域に根付く子どもたちを育てて欲しいと思います。 道徳という正解がない教科について児童はもとより、保護者、地域の方々にも公開してわかりやすく授業、講演をしている事は大変評価します。年々講演会への参加人数が増えている事は評価します。更には研究授業、公開授業等を通じ、教員相互に学ぶ機会を意図的に設定している事も評価します。全教員の指導力について、高いレベルとなるよう、学校全体で今後も研究を続けて欲しいと思います。授業を受けた後の子どもたちの心の変化を見守る姿勢も評価します。
中学校	学力向上	<ul style="list-style-type: none"> 数学・英語は習熟度別に2段階の教室に分け、効果的に授業を行っている。教員同士で綿密な打ち合わせ、教材研究を行っているとのことで、学力の向上に生かされていると考える。水曜教室では英検・数検合格を目指して放課後学習している。英検・数検だけではなく、漢検の受験も積極的に促しており、目標を持った学習につなげている。 数学検定や漢字検定が全員受験となり、放課後の検定前学習教室に参加する生徒がかなり増加しているようです。日常の学習だけでなく、生徒自信に目標をもたせ主体的に学習に取り組ませる機会をつくることは大事だと考えます。引き続きよろしくお願いいたします。 ICT機器を活用した授業推進において、前年度の評価を踏まえて、ICTの活用そのものが目的ではなく、生徒自身が問いを解決していく探究的な学びに活用している点は評価できる。
	信頼される学校	<ul style="list-style-type: none"> 学校に来校するたびに生徒から元気に「あいさつ」をしてくれます。朝の挨拶運動の賜物だと思います。 複数の教科や領域で、外部人材を活用して社会の課題に対して「自分たちにできることは何か」を考える授業を行っている。社会の一員としての自覚を促し、キャリア教育につながる活動となり、価値ある取り組みになっている。 アンケートの結果から、教員が生徒や保護者から信頼されていることが読み取れる。チームとして教員間の連携が温かな雰囲気や信頼を生み、それぞれの教員が課題意識をもって対応していると推測される。
	豊かな心・人間性・感性の育成	<ul style="list-style-type: none"> 豊かな感性の育成を目指し、特色のある計画的な教育活動が行われています。特別活動や道徳の授業で目的に適した講演を実施し、生徒の心の育成を推進しています。読書活動にも力を入れ、蔵書の充実を図り、本の貸し出しを工夫するなどして、読書を奨励し教養や感性を育てています。 学校行事で生徒の役割と責任を明確にしながら生徒に任せていくことは、主体的な学びのために重要な取り組みだと考える。不登校の生徒についても特別支援コーディネーター、スクールカウンセラー、スクールソーシャルワーカーらと連携し、生徒が学習、成長の機会から取り残されることのないよう支援ができていくと考える。 いのちや人権の大切さを考えることに重点を置いている。学校は、平和学習への取り組みを充実させることができている。